

市民行政 地域要望などで意見交換

◆市内4地区で開催◆平成25年度 移動行政懇話会

移動行政懇話会は、市の現状や課題などについて市民と語り合う事を目的に平成19年度から開催しており、今年度は8月27日から30日にかけて4地区で行い、市民約200人が参加しました。今年度は福祉の雪事業や空き家等実態調査などについて説明するとともに、市民からさまざまな意見や要望を伺いましたので、その概要をお知らせします。

◆阿仁地区(8月27日)

8月27日の阿仁会場では、開会にあたり津谷市長が「阿仁地区は、森林、鉱山文化などの素晴らしい宝物を抱えた地域。マタギ文化や伝統芸能、様々な名瀑もあり、もっと光を与えていかなければならないと思っっている。現在は、県と市の協働事業の『まると森吉山観光振興プロジェクト』や熊牧場の整備が動き出しており、更に多くの方々に交流していただきながらお金を落としてもらえようようにして、活性化につなげていきたい」などとあいさつ。
続いて、市の担当職員が、平成25年度福祉の雪事業と空き家等実態調査などについて説明しました。
参加者から出された主な質問や意見、その回答は次のとおりです。

▼間伐等の補助金を受けられる森林経営計画を早急に進めてほしい。
経営計画は、やれるところ、やりやすいところから手をかけている。民有林は、同意をもらうことが難しい実態があるが、市の面積の8割以上が山林であり、これを活用することが市を元気にするという認識の下で関係機関との連携を強め、計画を進めていきたい。

▼「まると森吉山観光振興プロジェクト」での森吉山の観光開発、熊牧場のリニューアルオープンに向けて、安の滝への道路整備を。
安の滝は協定により、森林管理署が整備を行うことになっているが、



▲阿仁ふるさと文化センターでの様子

森林管理署は、観光用の道路でなく、あくまでも作業道として捉えている。市で整備を行うとすれば、莫大な費用がかかるので、やり方を検討していく必要があると考えている。
また、日本経済新聞に「山歩きを楽しむ滝」全国一位として紹介されたことから、滝に来た人がつかりさせないように整備方法について検討していきたい。
▼小・中学生の挨拶が非常に良く元気をもらっている。この挨拶が、今後も続いていくことを願っている。
阿仁地区も含めて、市の子どもたちは挨拶ができるようになったと感じているが、中には子どもたちが挨拶しているにもかかわらず、返していない大人もいるので、我々からもしっかり声かけをしていきたい。

◆森吉地区(8月28日)

▼小又道路は狭いため、一般車両が交差できない。市で観光振興を図る上で、重要な路線であるため拡幅するか待避所を設けるなどの対策を。
小又道路の拡幅はたいへん困難な状況にある。ご提案あった待避所については、可能なかを自治会長の立ち合いのもと、現地で確認したい。
▼浦田小学校が閉校したが、避難場所が変わっていない。今後どのように設定するのか。

浦田小学校は閉校したが、しばらくは避難場所として活用する予定。電気が通じないときには、発電装置を用意して対応する。なお、市の防災計画を平成26年度に改定する予定であり、その際に避難所についても精査し、皆さんにお知らせしたい。

▼ハザードマップを全戸配布したが、無くしてしまった場合は、市役所に行けばすぐにもらえるのか。
現在、在庫が少ない状況。増刷してお配りすることになるので、必要な部数を連絡していただきたい。

▼給食センターを建設した場合、今ある給食センターは解体するのか。
また、隣接する『みたけ荘』も解体されるのではと、地域住民は心配しているが予定は。
な

◆鷹巣地区(8月30日)

▼公道(県道)の除雪について、歩道が無いため子どもや高齢者には危険であり、ここ最近では除雪がされているが、担当者がかわれば前のように除雪されないのではと不安。歩道の設置を市からも県に強く要望してほしい。

降雪前に県と市の担当者が、町内会の方へ協議に伺うので、よろしく願いたい。

▼アメンロの防除について、発生時期以外に薬を散布しているのを見かけたことがあるが、市では発生時期の周知や指導をしていないのか。
また、自治会で防除の機械を市から借りているが、各自自治会の防除の実施時期と重なり、借りるのが難しく、市以外から借りたりしている。

市以外から借りた時の経費の一部でも補助金等で支援いただけませんか。防除の時期は各自自治会の判断に任せているが、今後検討したい。経費の負担については、これまでそういった考えが無かったため、持ち帰り検討させていただく。

▼中心市街地活性化の政策は評価しているが、建物建設は多額の費用が掛かる。もう一度、アンケートなどを実施して、商店街をはじめ市民の意見を聞き、進めた方が良くと思う。



▲中央公民館での様子

中心市街地にぎわいを取り戻すのは行政だけでは解決できない課題であることから、これまでも話し合いの場を設けたり、アンケートをとってきた。
〔仮称〕生涯学習交流施設については、平成23年に中心市街地活性化検討委員会を立ち上げ、北秋田市中心市街地活性化ビジョンを策定し、そのなかの課題解決のために施設を整備することにしたもの。

基本設計・実施設計にあたっては、市民による活用検討委員会でも更に協議をしながら、多くの市民から親しまれ、利用されるような施設に作り上げていく。
また、市民から意見を募った上で実施設計に反映させ、平成27年度のオープンを目指している。



▲森吉コミュニティセンターでの様子

◆合川地区(8月29日)

▼財政破綻している自治体がある中、市は福祉の雪事業などを行っているが、財政状況の見直しは。
一部の大都市を除き、地方自治体の財源は国からの地方交付税により賄われているため、豊かであるとは言えないが、市民の生活を守るためにも「福祉・医療」の分野を優先し、限られた財源の中で地域からの要望を取り入れながら、将来を見越した運用を考えている。市の財源の要となるのは税金であるため、税の公平



▲合川農村環境改善センターでの様子

さを保ち、皆さんから信頼され、安心して税金を納めていただけよう努力していきたい。
▼空き校舎になった旧合川南小学校の校舎を利用して企業誘致などが考えられないか。
市としても市内で操業する企業やその親会社、更にはその取引先の企業まで訪問し、雇用や仕事を増やしていただくように呼びかけている。今後一人でも多くの方の働く場所が増えるように活動していきたい。

▼市営住宅入居者との連絡調整のため、まとめ役を作りたい。
ゴミの集積などで自治会から苦情が来ているのは認識している。入居者の代表者や自治会の方々と、どのようにしていくかを引き続き検討していきたい。